



「ロングテール」という言葉を
 ご存じの方はインターネットビジネスに
 詳しい方だろう。意味は文字通り「長い尾」。
 インターネットを使った商品販売で、売れ筋
 でない、売れないとされてきた商品を
 扱っても商売として成り立つことを
 主張した理論だ。



時代をみきわめる。足元を見直す。

消費者の購買行動の様変わりや、大型百貨店、大型量販店（スーパーなど）あるいは町なかの小売り店の現場で様々な変化を引き起こしている。今治から大丸が引き上げたり、松山で三越が規模縮小したり、身近では因島のサティが店をたたんだり大型店舗がつぎつぎ経営難で統廃合、縮小を強いられているようすだ。

大型店のみならず小売店の衰退はことに著しい。小売店、ことに我々が住む地域のように、日常必需品を扱う店でも、その渦に飲み込まれずにいるのは至難のわざに思える。

小売業の生き残る道は？

言うまでもなく小売店とてそれを維持する店主、雇われ人などの生活資金を稼ぎ出せねば成り立たない。同業者との競争、住民の多寡、所得格差など色々な要因があり、そのうえで世界相手の激しい価格競争に否応なく巻き込まれる。

仕入れを安く、在庫管理費を安く、販売経費を安く、そして利益は高く設定しようにもままならない。

ところがインターネットを利用したネット販売では、膨大な商品を低コストで取り扱うことができる。なぜかということ、以下のように視点を移せば見えてくる。



活用しよう 人も物も知恵も みんなネットにつながっている

否応なくインターネット時代

インターネット・オンラインビジネスでは無限ともいえる売り場スペース（ウェブサイトとかコンピューターにデータとして）を用意することができ、実物は地代の安い場所に在庫スペースを設置することもできる。宅配網の飛躍的進化より従来の物理的制約の多くは乗り越え可能となった。



「ロングテール」は店舗での品揃えの対象にならなかったような商品群のことを指し、タテ軸に販売数量、ヨコ軸に品目を、販売量の多い順に並べてグラフを描くと、販売量の少ない部分がなが〜く伸びるさまを「ロングテール」（長い尻尾）に見立てた呼称だ。誤解の無いように言い添えておくと、個々のネットショップが無数の品揃えをしているという意味ではない。ネット上には無数の商品があるということと、インターネット上で検索すれば、ほぼ一発で欲しい品物にたどり着ける、ということである。

売れ筋ではない商品、減多に売れない商品（ニッチ商品とも呼ばれる）などの多量少量販売の分野でもインターネットの活用で、ネット上の消費者は無限大に近いことから、大きな売り上げ、利益を得ることができるという「ロングテール」とはなにか？

一般に商品販売では「80対20の法則」（全売り上げの8割は全顧客の2割の財布から出ているという経験則）が成立することが知られている。そのため売れ筋でない商品は売り場から除かれてしまう。

商品とは何らかの必要に迫られて生産される。潜在的顧客は必ずいる。そういう顧客の需要に、どこかの誰かさんが応えるというのが「ロングテールにおける商機」と位置づけられる。

インターネットは顧客と1対1の関係だが

狭い地域内での小売業では、少子化や高齢化の影響をまろに受ける。いずれ事業の永続が困難となるのはあきらめよう。一方で消費者は欲しいものは金を払う。そのように考えれば、広く無限大の消費者に向け、ネット上に公開された掲示板で「私のところにはあなたの欲しがるはずの商品があるよ」と情報発信することは、1対1でありながら1対∞の広告にもなる。数年に1回しか売れないような商品でも、インターネット上の膨大な消費者の中には欲しがる人も多くいるだろう。そうした商品を数多く用意することで大きな売り上げを期待することができるのはネットで世界中の消費者が繋がっているからにほかならない。

移住者が入ってきやすい町に

ネットで買い物をする人は年々増える。すでに無料短文掲示板「ツイッター」を活用し、農協や仲買に頼らない顧客獲得に成功した農家だってある。我が町でもロングテールに目をつけた人の移・定住促進策が真剣に論議されるべきだろう。



B面には町内の一つの事例として都会から上島町岩城移住してきた若者が、ネットショップを通じて、過疎地での新たな商いに挑戦している姿を紹介する。



尾道で映画
 次の通り割引します。
 大人・高校生以上 前1,800円→1,500円
 3歳以上・小・中学生 前1,000円→800円
 シニア(60歳以上)1,000円

場 所	尾道しまなみ交差点
上映日程	5月22日(土)
上映時間	第一回目 10:00~ 第二回目 13:00~ 第三回目 15:30~

お問合せ先:生涯学習課(0848)20-7444
 主催:尾道市教育委員会・尾・フューレック

特別割引券 (本券1枚4名まで有効)

弓削通信に5枚あります。
 電話 77-3072 まで

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
 ☆会員募集
 ライオンクラブ、T r y s y m
 ビデオオ立ち上げました。
 ティオ制作を通じて会員相互の
 交流を促進し、地域貢献を
 目指します。
 連絡先:弓削通信の場と



ぼんぼこらんど

岩城の古崎公一(公ちゃん)さん夫妻は「ぼんぼこらんど」というネットショップを運営している。開店して2年あまりだ。公ちゃんは、インターネットブログとネットショップで「島みがき」をしたいと思っている。



岩城さへらまつりに初出店

ブログとショップで「島みがき」

扱う品目はいまのところ地元岩城で生産される芋菓子、柑橘類、地元 U 水産会社の加工、半加工製品、県内産柑橘を使ったジュース、自分たちで企画製品化した焼き物(積善焼き)など。読者におなじみの商品も多い。もちろん扱う品目を広げたいと考えている。

「ぼんぼこらんど」の運営は妻の幸江(YUKIE)さんが店長ということで、2008年1月に開店を決意。ネットショップの作り込みをし、やっと軌道に乗ってきた。「生産者の顔の見える安心して口に運べるもの」をモットーにしている。それは、食の安全がどこにあるのかわからない時代だからこそ、という危機感に根ざしている。2児の母親として当然ともいえる姿勢だろう。

◆島を磨いて再び輝かす

YUKIEさんは岩城出身。夫の公ちゃんは福井県福井市の出身でアメリカで大学を卒業。帰国後実父の経営する会社の東京支店長をしていた。

都会特有の人間関係、拝金主義的思考、満員電車通勤がいやで妻の実家のある岩城に移住を決意した。5年前だ。

初めて訪れた岩城で登校する中学生が気持ちのいい挨拶をしてくれたこと。まだ生まれてはいなかった我が子を、その元気で挨拶の出来る島の子にだぶらせて移住を決心したという。

◆島の良さに気づく

ことし3月、公ちゃんは働いていた地元企業を退職、いよいよ二人で「ぼんぼこらんど」に専念、独立することにした。

さて一家の生計をネットショップに託すのに不安はないのだろうか。

この記事を書くに当たりお二人に10項目のメール取材をさせていただいた。

アンケートへの回答を読んで強く感じることは、自分たちの取り組みは「岩城の生産者と消費者を結ぶ」のだという決意だ。ことさら大上段にふりかぶるのではない。そうしなければそもそもネットショップは成り立たないからだ。

ネットショップの成否の鍵は?という質問にYUKIEさんはこう回答している。

「鍵は私たち自身です。私たちが島の方たちとうまく付き合っている商品を提供する。2年2ヶ月のショップ運営でわかっていることは、島の商品はいいものだということ。

どこに出しても美味しいと言われる。あとは私たちが精一杯出来ることをして、生産者と消費者をしっかりとつなげていけば、自然とお客は増えてくると思う」と。緻密かつ楽天的でいい。

◆三方よしの心欠けては

うそかまことか農家は自分たちが食べる農産物は、無農薬あるいは減農薬でつくると言われる。もしそれホントのことなら、商品としての農産物は農薬まみれという背反を連想させ、製品の生産性を上げる方法論と、消費者としての選択基準論が真っ向から衝突することとなる。

「自分が食べて安全で安心なものしかお客さんには出せない!」とする町内 U 水産の社長の姿勢と YUKIE さんの立脚点が一致した。

回答をみれば、彼らがなにをしたがっているのかが見えてくる。乱暴を承知で大きく括れば「志」に真正面から取り組むということになるだろうか。

実はそのことは、我が町の将来を考えたとき、この町で生きてこれた、あるいは生きている我々こそが果たさねばならない「つとめ」を指しているのではないのかとおもうのだが、どうだろう。(平山和昭)

お便りから

今日は、通信をありがたうございまして。先日、野鳥の会のピテオを見ていただきました。とてもいい具合にできていて感心いたしました。(生名・村上)

「フエニックス」とある通信をいただきありがとうございます。興味深く読ませていただきました。特に因島自由大学、参加してみたいものです。わたしはファン青木さんが、また執筆なされてうれいす。(東京・小川)

祝復刊!
ゆげがこの間出てこないほど冷えたのですね。弓削島には湯気が必要なんです。それは誰にでもできるというものはないんです。(宮城県・本田)

復刊弓削通信 2010年11月(通巻128)をありがたうございまして。「前へ進め」これこそ我々中高年の志、そして行動パターンだと思えます。向後、弓削の通信を期待しています。(大分県・菅井)

とうとう「弓削通信」にフエニックスが翔んだね。嬉しいことだ。私も楽しみが広がってきただし、人間の感覚とか感情はなかなか変化しない。粘ってがんばってください。(松山・荒井)

弓削通信を復活なさいまして嬉しく思います。又楽しみに読ませていただきます。腰を痛めて人中に出ることも少なくなりまして人様のお話しを聞く時も又無くなりました。毎月お待ちしております。(生名・村上)

お便りから

青木喜代子

物忘れ、覚えられない、そして思い出せない。これも大オバになった証なのか?女優の名が思い出せない。「あの映画に出てた人」「最近はそのCMにも出てたけどな」「なんの?」「えーと」

横で聞いていた友人の息子が「おぼちゃん、話にならんね!」こんなことなかった少し前までは。

春の長雨のおかげかイノシシが飽きたのか今年も豊作らしい。雨後の筍と一緒にしたら筍にもうしわけないけど、このところの新党結成の多さには驚く。「たちあがれ日本」じゃなくて、少し立ち止まって、よく見て考えて欲しいのね。リーマンショックでカネの使い道を考えられるかと期待した私が馬鹿で

七色のパッシ



でわかる。グッドアイデア!なんて馬鹿げたことを考えながら風呂に入ったら、突然「鈴木京香!」

喉元まで出かけていたあの女優の名前がポンと出てきた。鈴木京香がどうした?何で思い出す必要があったの? さあ...こればかりは誰に聞いてもわからない。

因島自由大学

6月5日(土) 午後2時~4時 女子文化情報センター
学費二千円・いのちひきとめたい 講師・浅野泰蔵先生